

片山津わくわく工作部最優秀

小学生プログラミング県大会

最多34組応募

児童がプログラミングを用いた作品やアイデアを競



う「システムサポート presents 全国選抜小学生プログラミング石川県大会」(北國新聞社など主催)

は29日、金沢市の北國新聞交流ホールで開かれ、片山津わくわく工作部(加賀市片山津小)が最優秀賞に輝いた。

プログラミング作品を発表する児童—北國新聞交流ホール

3回目となる今回は過去最多の34組が応募し、14組20人が書類審査を通過した。プログラミング言語や作成ツールは自由で、出場者は「みんなの mirai」をテーマに発表し、作品の狙いや特徴、苦労した点などを3分以内で紹介した。審



最優秀賞の片山津わくわく工作部と優秀賞の河並さん(左端)

査は発想力、技術力、表現力の3項目で行われた。大会は2020年度に小学校でプログラミング教育が必修化されたことを受け、同年度から開催されている。全国新聞社事業協議会が企画し、都道府県大会は加盟社が開催する。

メイドロボット

不審者も発見

片山津わくわく工作部は「次世代型IoTメイドロボットROMちゃん」と題したロボットを考案し、第1回大会に以来2度目の最優秀賞となった。朝は優しく起こしてくれ、出掛けるときに「いってらっしゃい」、帰宅時に「お帰りなさい」と声を掛けてくれる。誰もいない時間に人感センサーが反応した場合は不審者として所有者のスマホに通知する機能も搭載した。同工作部メンバーの下口

美咲さん(片山津小6年)、川畑翼さん(同)、井上心愛さん(同5年)、扇野々花さん(同)は3月5日に東京国際フォーラムで開かれる全国大会に出場する。下口さんは「全国でもいい賞を取りたい」と意気込みを語った。

県大会決勝の審査員はシステムサポートの小清水良次社長、金沢工科大学部の河並崇教授、金沢学院大経済情報学部の松田聡浩准教授が務めた。最優秀賞以外の入賞者は次の皆さん。

- ▽優秀賞 河並夏希(金沢市田上小5年)▽特別賞 山崎勇璃(金大附属小5年)▽佳作 細川大輝(能美市湯野小6年)吉田光範(小松市芦城小4年)河南しづつ(加賀市河南小)野本悠貴(白山市千代野小6年)▽審査員アイデア賞 矢田勇(金沢市額小6年)松田愛莉(白山市明光小3年)▽みんなの mirai 賞 山口倅(かほく市外角小6年)正武田杏慈(輪島市三井小6年)牧姫生(能登町鶴川小5年)三宅初乃(金大附属小3年)東大輝(津幡町英田小5年)▽優秀学校賞 輪島市三井小